

提 言

歯肉炎から生きる力をはぐくむ

前田 隆秀 (日本大学名誉教授 / 日本ウエルネス歯科衛生専門学校 校長)

子どもは健康でたくましく育って欲しい。良い生活習慣は健康に必須であり、子ども自身がそのことを自覚して欲しい。子どもが不健康の初期症状を自らが認識でき、自らの行動変容(生活習慣の改善)によって健康を取り戻すことができる体験をした時は、大きな驚きを感じ、加えて大人の称賛によって生活習慣の重要性をスムーズに喜びを持って認識するであろう。この経験は、その後の保健活動・教育に大いに貢献する。

歯周疾患は歯肉炎と歯周炎に大別することができるが、歯肉炎と歯周炎は大きく異なる。歯肉炎は炎症が歯肉に局限していることから健康な歯肉に比較的容易に戻ることが可能であるが、歯周炎は歯槽骨を含む歯周組織にまで炎症が波及していることが多いことから完全に炎症前の健康歯肉に戻すことは容易ではない。免疫力が著しく低下する疾患を有している場合を除き、子どもの歯周疾患は歯肉炎であると言って過言ではない。歯肉炎は歯垢の集積によって発症することから単純性歯肉炎あるいは不潔性歯肉炎と呼ばれる。小児歯肉炎には萌出性歯肉炎や思春期性歯肉炎などがあるが、ともに歯垢の集積がある。単純性歯肉炎の発症には、適正な歯みがき習慣の不足、歯垢が集積する食習慣が存在する。

初期歯肉炎は、歯肉の発赤、わずかな腫脹があり、歯みがきをするとわずかに出血することもある。しかし、歯みがきの励行と食習慣の改善によって短期間にピンク色で引き締まった健康な歯肉に戻る。この変化は子ども自身が鏡で確認できる。歯肉炎は、多くの子どもに認められることから「生きる力」をはぐくむうえでの良き教材として日本学校歯科医会では、子どもの単純性歯肉炎の初期を「要観察歯肉(炎);GO」と表現して、学校歯科検診を通じて保健教育に力を注いでいる。

歯科医だけでなく小児保健に携わるすべての職種の方々が、子どもの前歯の歯肉、特に歯と歯の間の歯間乳頭部に気をつけ、子どもの「生きる力」の育成へと導いて欲しい。

